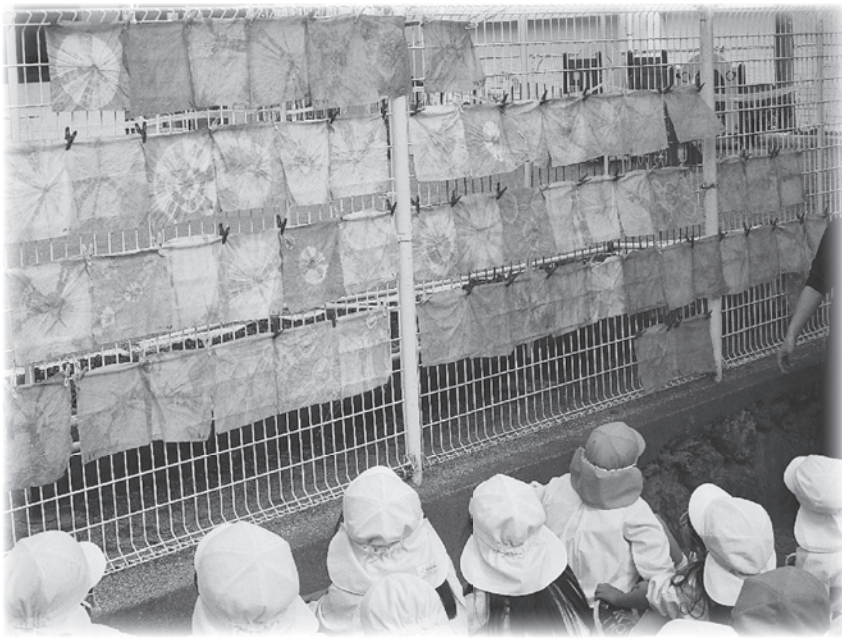


地域の素材を活かした色を使った遊び

明星幼稚園 越智 亜也
安部 志歩
長野 茉優



【いろんな もようができたね】

1. はじめに

今年度も前年度に引き続き、「地域の素材」を使っての遊びを子どもたちと楽しんだ。子どもたちが生活している別府という地域にどんな良さがあるか、そこで受けている自然の恵みはどんなものか、実際に触れながら、感じたこと、発見したことを友だちや保育者と共感できたらと考え、遊びを展開することにした。

今年度は「いろ」の取り組みだけでなく、幼稚園の砂場の砂の感触だったり、そこから発展して、血の池地獄の泥をダイナミックに使って、自分のしたいように絵を描いたり、身体に塗ったりして楽しみ、泥の感触にも着目するようにした。

これまでに経験したことのないふるさとの自然や社会と関わり、楽しい体験や発見が出来ることを期待して、年間指導計画にも位置づけることにした。

2. 研究の内容及び方法

(1) 研究内容

- ① 自分たちの住む地域の自然の素材を知り、それを使った遊びを楽しむ。
- ② 素材に触れてみたり、自由に遊んだりして、素材そのものの感触を楽しむ。

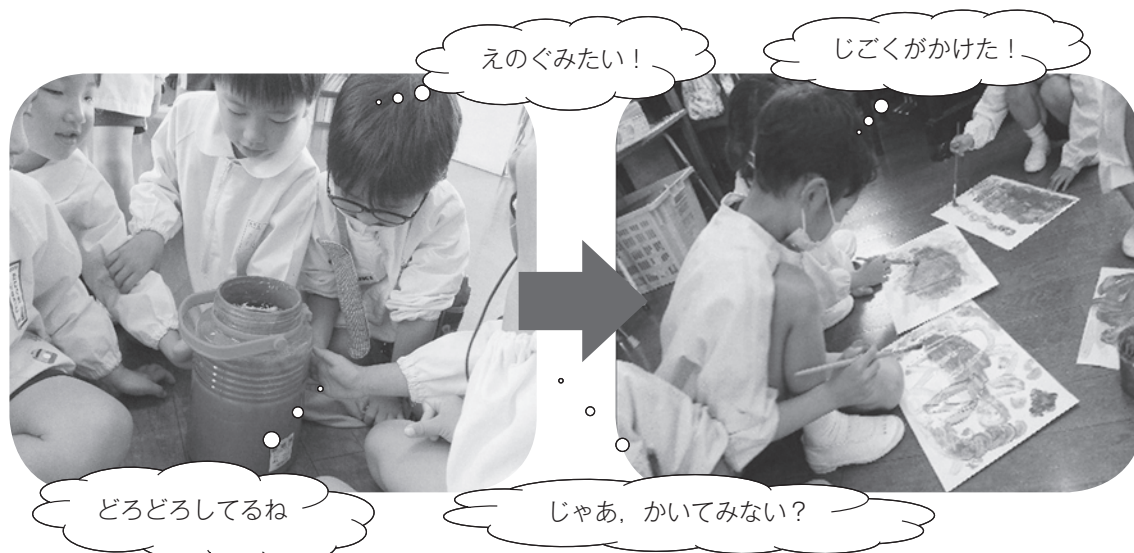
(2) 研究方法

- ① 砂場の砂や園庭の土、地獄の泥に触れて、そのものの感触の違いに気づく。
- ② 遊びの中で身の回りの花や実の色に興味を持ち、色水遊びをしたり、他の色と混ぜて色の変化を楽しんだりする。いろいろな素材や道具を使って遊び、発見したことを言葉にする。
- ③ 実際に血の池地獄に見学に行き、自然の素晴らしさを感じる。

3. 実践事例

【7月】 事例1 血の池地獄の泥を使って～絵が描けるかな？～

前月、園庭の泥で作った泥絵の具で、大きな紙に絵を描いた。「大きな紙に描くのって楽しいね。」「泥でも絵が描けるね。」と泥絵の具を楽しんだ。そこで保育者は、地獄の泥遊び（泥絵の具）を計画した。泥で絵を描く楽しさを知った子どもたちは、「これで絵が描けるのかな？」と興味津々で、「描いてみない？」と子どもたちに投げかけると、「したい、したい！！」と返事が返ってきた。この日は血の池地獄と坊主地獄の泥と伽藍岳の土に水を入れたものを使って自由に描いてみた。絵の具とはまた違った感触で「何か重い・・・」「このにおい何？これっち地獄の匂いなんかな？」「血の池地獄の泥で血の池地獄を描いてみよう。」とそれぞれが自分の描きたいものを描いた。終わってから、床に描いた絵を置き、みんなで見合い、「血の池地獄を描いた。」「僕は恐竜を描いたよ。」など、何を描いたか発表した。特別な絵の具という意識があったのか、作品を大事に抱えていた。



【じごくのどろって とろとろだね】

【じごくのどろで えがかけたね】

【11月】 事例2 血の池地獄の泥で染物に挑戦！～どんな色に染まるかな～

泥で絵を描いたりして楽しんだ子どもたちに、「泥を使って染めたりすることができるんだよ。」と保育者が話すと、子どもたちは、「えー??」と驚き、「やってみたーい。」「どうやってするの? 教えて!」と意欲満々な様子であった。慣れ親しんできた地獄の泥を使って染物をしてみたいということになったので、白色の綿の布、割りばし、ペットボトルのキャップ、ビー玉、洗濯ばさみなど模様を作るための道具も置いておき、使いかたを簡単に説明した。

そして「自分のしたいようにしていいよ。」という、作りたい模様によって道具を選び準備していった。そして、それを泥につける時、期待でいっぱい表情をし、「チョコレートのお風呂にはいりまーす。」と地獄の泥をチョコレートに見立て、つけていった。2時間程たってから園庭で泥を洗い流す。「この泥、熱くないかな。」「なんかぬるぬるしてる。」と思いに感じたことを話しながら洗っていくと、白だった布がうっすらした明るい茶色に染まっている。「だんだんとれてきた。どうなってるんだろう?」と興味を示す子どもたちであった。

そして、広げると「うわー! 白いところがある。模様になっているよ。」「大きな花が咲いているみたいだね。きれい!」と模様が出来ていることに気づき、興奮していた。「たくさんさいはながさいた!」とイメージした模様が出来ていた子もいれば、「なんか、くるまのタイヤにみえる!」と予想していなかった模様が出来た子もいた。きれいな模様が出ていた子に「何入れたの?」と質問したり、「割りばしを入れてゴムを巻いたんや。」「ビー玉入れたら、小さな花が咲くよ。」と自分の経験したことを伝える場面も見られ、「またしたいね。」と次に期待する言葉が聞かれた。模様にそれぞれ「花火」「観覧車」「おはな」「タイヤ」など名前を付け、楽しそうに染めた布を見合っていた。



【なにをいれてもようをつくる?】

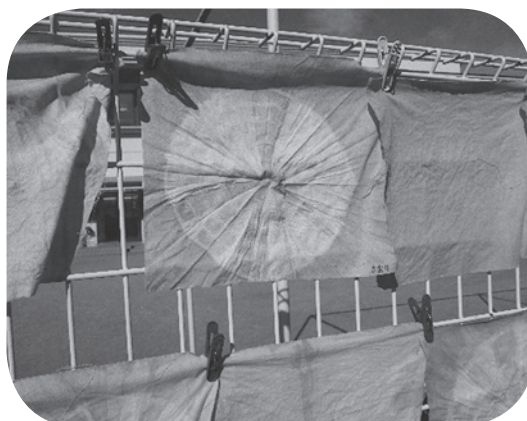


【チョコレートみたい。とろとろや】

タライで洗って泥を落とす。



【どんなもようができてるかな】



【かざぐるまみたい】

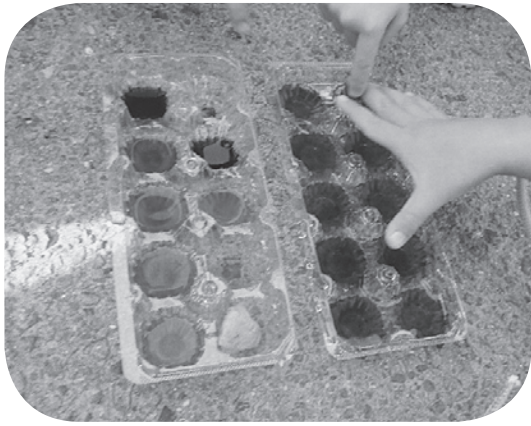


【おうちのひとにプレゼント】

【12月①】 事例3 再び色水遊び。色の変化に感動！！～なんで？どうして？色が変わった！～

以前の活動を思い出して、「また色水をしたい」「色水作りを楽しみたい。」という声が上がった。今度はその色水に大分のカボスやミカンを入れたらどうなるか、一緒に楽しみたいと考え、保育者はカボスやみかんを準備した。そのものの色に変化すると思っていた子どもたちは、「みかん色になるやろ。」「カボスの色になる。」と想像していた。それがピンクだったのが青に変わったり、黒に近い色に変わったりして想像していたものと違う変化に驚きを隠せない。子どもたちは「見て見て！変わったんで。すごいやろ！！」と保育者に見せる。お花や木の実から出た色だけでも十分きれいだが、それにさらにカボスなどを入れることで思いがけない色ができ「カボスっち色を変える力があるんや！」と発見したことを言葉にした。

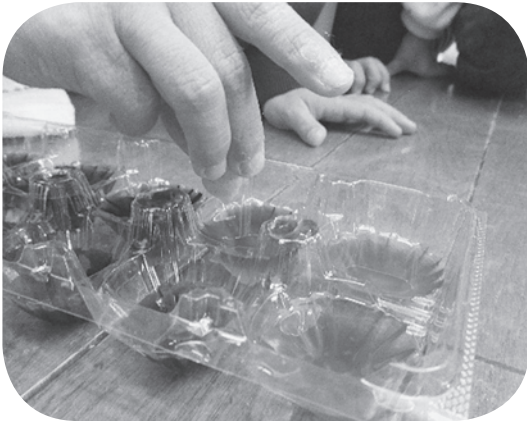
「先生、これを凍らせたらどうなるん？」とさらなる変化に期待をする子どもたちは、保育者をお願いして冷凍庫で凍らせることにした。すると、鮮やかな紫色でグラデーションになって凍っていた。その美しさにも感動しており、「グレープジュースみたいにきれいな色になった。」「デザートみたいになったね。」と保育者に見せながら思ったことを伝えていた。



【カボスをあおいろみずにいれたらどうなるかな】



【カボスをいれたらこんないろができたよ】



【カボスのしるをいれてみると・・・】



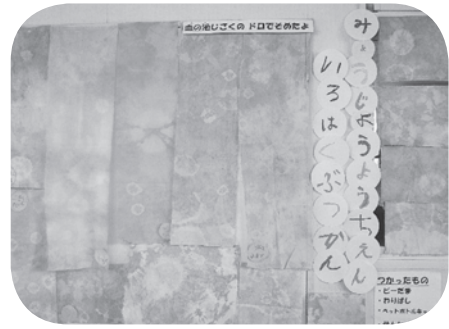
【おいしいゼリーみたい】

【12月②】 事例4 そめものやさん～大きな布に染めてみたい～

泥染めを経験した子どもたちから、「もう一度、もっと大きいのでしてみたい。」「違う模様チャレンジしてみたい。」という声が聞こえたので、布を用意した。大きい布を見ると、自分一人でするのは大変だと考えた子どもたちは、「かわいいからたくさんビー玉を巻きたい！一緒にしようよ。」「いいね。たくさん花を咲かせよう。」と共通の目的を持って作り始める姿もあった。考えたことを伝え合ったり、出来る模様に対して期待を持ったりする言葉がたくさん飛び交った。

出来た染め物を見て、「わー！大きい『わ』ができた。」と喜んだ。素敵な作品ができたので、「いろはくぶつかん」にして飾り、みんなが見ることが出来るようにした。

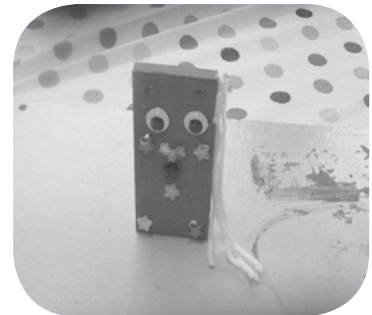
【みょうじょうようちえんいろはくぶつかん】



【こんどはともだちといっしょに】

【2月】 事例5 色のぺんきやさん

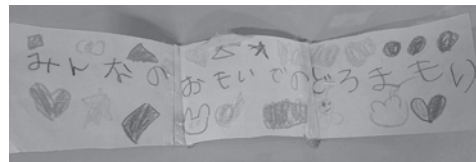
保育者は、「ふるさとのたからもの」の中から「血の池地獄の泥は昔、家を守る柱に塗られていた」ことを子どもたちに話した。子どもたちは、「うん！いいね。作ってみたい！」と、地獄の泥に膠（にかわ）を混ぜて、板に塗ってみることにした。さらに塗ったものに目やビーズなどの飾りをつけてみると、とても愛嬌のあるかわいらしいものに仕上がった。「ねえねえ、みんなどこにかざる？」と保育者が子どもに尋ねると、「家のピアノの上！」「いつも持っていたい。散歩の時も。守ってくれるから」と返事が返ってきた。そして、「かわいいね。名前をつけようよ。」「泥は守ってくれるんだよね。」という話になり、いろいろ案は出たが、「1年生になるから、『みんなのおもいでどろまもり』は？」とお守りに決まり、大事に持って帰る姿があった。



【かわいいおまもりができたよ】



【どろがまもってくれるんだって。】

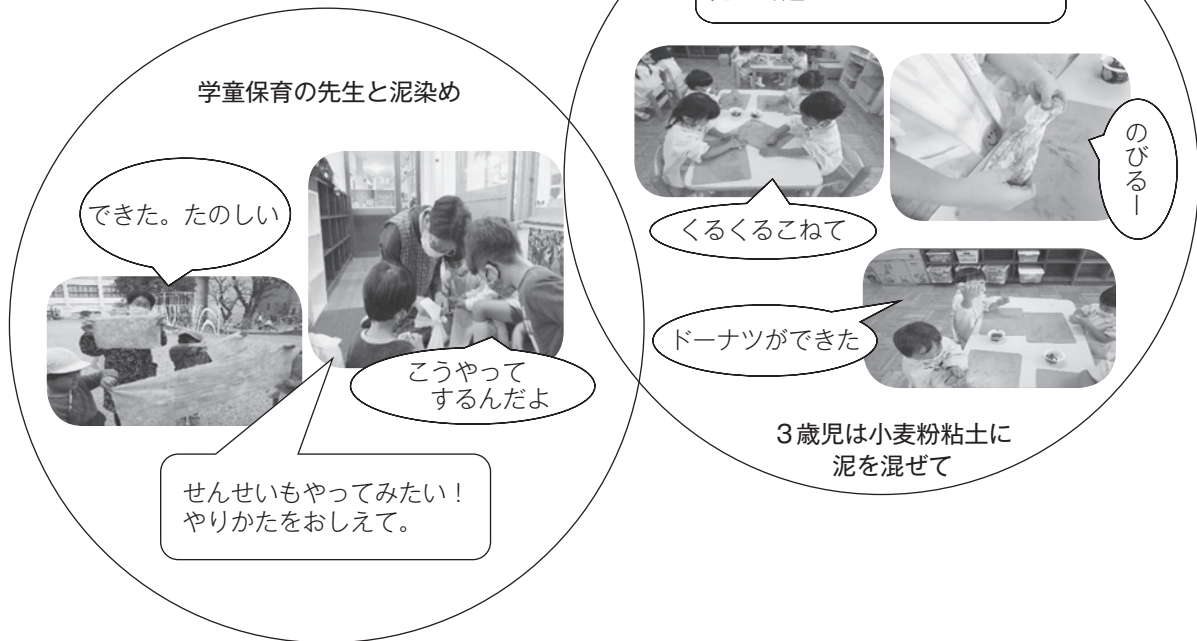


【みんなでなまえをつけたいね】



【みてみて、きれいにぬれたよ】

実践を通しての遊びの広がり



【令和4年度 5月】 事例6 砂や土、水で遊ぼう

子どもたちは、「大きな山を作って登りたいな。」「周りに水を流して川を作りたい。」と砂場で遊ぶことに期待する気持ちが膨らんでいた。水を繰り返し流し、裸足になり、水と砂の感触を味わう子どもたちは、砂を水で固めてトンネルを作ったり、砂を掘って溝を作ったり、水を流したりして砂や水の特性を楽しんだ。また、昨年同様に、地獄めぐりの映像を見て、別府には『地獄』というものがあることを知り、「地獄の泥っち触れるのかな。」「どんなにおいがするんやろ?」と興味を持った。保育者の「地獄の泥をもらってきたよ。地獄の泥遊びする?」という誘いに「したいしたい!」と早く触りたくてたまらない子どもたちであった。遊び始めると、身体ごとダイビングして全身で泥の感触を味わい、「ぬるぬるしてる!」「だんだん固まってきた。」と大騒ぎしたり、全身に塗り、「おばけだぞー。」「きゃーこわい!!」とごっこ遊びを楽しんだり、楽しい時間が続いた。



【どろってきもちいい】



【はやくさわってみたい】



【からだぜんぶをつかってどろあそび】

～年長組保護者より頂いた感想～

●E児母

「地獄の泥で染める方法は3つあるよ。割りばし，キャップ，ビー玉」と幼稚園の遊びを詳しく話してくれました。当初，「地獄？」「泥？」「何のこと？」と聞いていましたが，染め物のことだとわかりました。娘は誇らしげに渡してくれ，「楽しかったんだな」と実感しました。娘の染め物は私の「宝物」です。今も我が家に飾っています。別府にしかない「地獄の泥」を使った遊び，とても斬新だと思いました。

●M児母

血の池地獄に行きました。地獄は高温，入れないように柵があり，柵の向こうにある泥を使って絵を描いたり，染めたりすることは，通常できないことです。貴重な体験はずっと心に残ると思います。別府の材料を使って，子どもたちの楽しい体験になったことを嬉しく思っています。

●K児母

「地獄」「泥」「オレンジ色」について毎日話してくれます。迎えに行くと，干している染めた布の説明をしてくれました。家族全員が地獄に興味を持ち始めました。「コロナが収まったら，みんなで絶対地獄めぐりに行こう」と話しています。

4. まとめ

- 子どもたちは，泥遊びで血の池地獄の泥を身近に感じ，染め物や絵，色塗りに夢中になり楽しんだ。この姿を家庭やキャンパス内に発信したところ，これまで着目することのなかった地域素材のすばらしさを共感していただくことにつながった。また，血の池地獄色博物館で子どもたちの作品の展示をすることは，幼稚園の遊びを地域に紹介することにつながった。

※「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」に示されている「社会生活との関わり」につながる姿

- 子どもたちは周りにある色に関心を持ち始めた。色水遊びでは身近にある花や実から抽出される色水作りに熱中した。花や水の量によって色が変わることを体験したり，地域の素材（カボス）を使って色が変化することの不思議さを感じたりして，色水に対する興味が大きくなっていった。友だちとどうしてこうなったのだろうという疑問を「こうなんじゃないか」と推測ではあるが伝え合い，新たな学びにつながったのではないかと感じる。

※「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」に示されている「豊かな感性と表現」「自然との関わり」「思考力の芽生え」「言葉の伝え合い」につながる姿